

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
日本自動車会館

電話 03(3578)3880
FAX 03(3578)3883
URL <http://www.aba-j.or.jp>

2014

8

No.859

発行人 新地秀一 編集人 田村里志
購読料 1部50円(購読料は年会費に含む)

東名高速足柄SAで交通安全キャンペーン 後席シートベルトの着用を呼び掛け



静岡県警察本部、静岡県高速道路交通安全協議会、
NEXCO中日本、JAF、当会議所などが共同で実施

日 本自動車会議所は7月12日、東名高速道路下り線の足柄サービスエリア(SA)で行われた「夏の交通事故防止運動キャンペーン」に参画し、後席シートベルトの着用を呼びかける啓発チラシを配布するなどして交通安全活動を展開した。このキャンペーンは、静岡県の「夏の交通安全県民運動」(7月11日~20日までの10日間)の一環として行われ、静岡県警察本部高速道路交通警察隊、静岡県高速道路交通安全協議会、中日本高速道路(NEXCO中日本)、日本自動車連盟(JAF)らと共同で実施した。

当日は、パトロールカー乗車体験や子ども安全免

許証の発行、シートベルトコンビンサー車での衝突疑似体験、発炎筒使用体験、クイックアームによる俊敏性測定などが行われ、SAに休憩に訪れた家族連れなどが順番待ちの列を作ってこれらの催しを楽しみながら体験していた。人気テレビ番組とのコラボ企画なども実施されている足柄SAは、東名高速の人気SAのひとつ。厳しい暑さに見舞われたものの、参画団体のスタッフらが昨年を上回る約1,200人のドライバーや行楽客などに啓発チラシやグッズを手渡して後席シートベルトの着用を訴えた。

(キャンペーンの様子は2~4ページに掲載)

◆◆主な内容◆◆

- 夏の交通事故防止運動キャンペーン詳報……………2
- 交通安全ポスター原画コンテスト、9月9日まで作品募集……10
- 「夢のクルマ」絵画コンクール最優秀作品選定……………4
- 東京・秋葉原で飲酒運転根絶イベント[東京都]……………11
- 第206回会員研修会開催……………5
- 第207回会員研修会のご案内……………11

(主な記事はホームページ=<http://www.aba-j.or.jp>=にも掲載しています)

足柄SAで「夏の交通事故防止運動キャンペーン」開催

静岡県の「夏の交通安全県民運動」の一環



日本自動車会議所も参画しクイックアームを出展

静岡、神奈川両県警合同の高速隊出発式

東 名高速道路下り線の足柄サービスエリア (SA) で行われた「夏の交通事故防止運動キャンペーン」は、SAの利用者に交通安全を呼び掛けるだけでなく、体験型のプログラムにできるだけ多くの人に参加してもらうよう企画された。静岡県警はじめ、参画団体が多彩な体験コーナーを出展し、時折、強烈な日差しが雲の隙間から降り注ぐなど、厳しい暑さに見舞われたにもかかわらず、SAを訪れた大勢の家族連れや行楽客などで賑わった。当会議所もクイックアームによる俊敏性測定コーナーを設け、子どもから大人まで順番待ちの列を作るなど大好評だった。今回のキャンペーンは、静岡県の「夏の交通安全県民運動」(7月11日～20日までの10日間)の一環として行われ、キャンペーンに先立って、静岡、神奈川両県警合同の高速隊出発式も開催。両県警からそれぞれ10台ずつ計20台のパトカーが足柄SAに集結し、「悲惨な交通事故を1件でも多く減らそう」との運動の目的を再確認し、高速道路での「本線活動」に出動した。

高速隊出発式では、静岡県警高速隊の今泉雅宏隊長が高速隊員に訓示し、「(全国の交通事故死者数は減少基調にあるものの) 静岡県の高速道路における交通事故は依然として増加傾向にあり、高止まりで推移しています。また、平成22年以降、全国の高速道路での交通事故死者数は4年連続で増加している状況が続いています」と述べ、「非常に厳しい状況」にあるとの認識を示した。今泉隊長は、「これから本格的な夏の行楽シーズンを迎え、交通事故の増加が非常に懸念されますので、本日のキャンペーンでは高速道路を利用される大勢の方々に、交通安全意識やマナーの向上を呼び掛けていただきたい」と述

べて訓示を終えた。

式典には、静岡県高速道路交通安全協議会や中日本高速道路 (NEXCO中日本) の関係者をはじめ、当会議所の新地秀一専務理事も来賓として出席。訓示の後、今泉隊長や出席者の見守る中、集結した20台のパトカーが一斉にエンジンを始動させ、1台ずつ「本線活動」に出動した。

キャンペーンでは、参画団体のスタッフがSAの利用者にチラシやグッズを手渡して、後席シートベルトの着用などを呼び掛けた。また、体験コーナーでの参加者や体験者にもチラシとグッズを配布し、交通安全の大切さや事故の恐さなどを訴えた。

【キャンペーン参画団体】

▷静岡県警察本部交通部高速道路交通警察隊▷静岡県高速道路交通安全協議会▷一般社団法人日本自動車連盟静岡支部▷中日本高速道路株式会社東京支社御殿場保全・サービスセンター▷中日本高速道路株式会社 東京支社交通管制T▷中日本ハイウェイ・パトロール東京株式会社▷一般社団法人日本自動車会議所



当会議所が出展したクイックアームによる俊敏性測定コーナー

夏の交通事故防止運動キャンペーン in 足柄SA キャンペーンの様様



たくさんの聴衆を魅了した静岡県警察音楽隊



パトカー乗車体験と記念撮影



白バイ乗車体験と記念撮影



交通管理隊パトロールカー乗車体験と記念撮影



シートベルトコンビンサー車による衝突疑似体験



子ども安全免許証発行



ドライビングシミュレータ体験



発炎筒使用体験



三角停止板設置体験

「夢のクルマ」 絵画コンクール最優秀作品選定 9月25日に表彰式開催

日本自動車会館運営委員会

日 本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車会館運営委員会（委員長＝永塚誠一日本自動車工業会副会長・専務理事、事務局＝日本自動車会議所）は7月9日、日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で日本自動車会館運営委員会広報部会（部会長＝酒井明夫日本自動車連盟広報部長）による「夢のクルマ」絵画コンクール作品選考会を開催し、御成門小学校5年生の田村徳啓さんの作品が最優秀作品に選ばれた。

田村さんの作品は、「水陸飛行犬型車」と名付けられ、その名の通り陸海空を走り、中に人が住めるようになっている犬型のユニークなクルマを描いたもの。

同運営委員会では、会館開設10周年記念事業の一環として、御成門小学校5年生を対象に「夢のクルマ」絵画コンクールを企画。5月中旬までに学校に提出してもらい、提出された作品は日本自動車会館「くるまプラザ」前に展示されている。最優秀作品は3Dプリンターで造形化し、9月25日開催予定の表彰式で贈呈する



最優秀作品に選ばれた「水陸飛行犬型車」

ことにしている。

「夢のクルマ」絵画コンクールは、評論家・ジャーナリストの立花隆氏による「日本自動車会館開設10周年記念講演会」、日本自動車会館フォーラム「ハイブリッドカー工作教室」に続く、会館開設10周年記念事業の第3弾として企画された。



日 本自動車会議所は7月15日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第206回会員研修会を開催し、国立科学博物館産業技術史資料情報センター長の鈴木一義氏が「日本モノづくり文化論」をテーマに講演した。参加者は約50名。

【講演要旨】

◇はじめに

私は、現在、博物館に勤めておりますので、これまで行ってきた展示などのご紹介を通して、“日本のモノづくりをどう考えるか”をお話したいと思っております。その前になぜ博物館にいるかですが、私は博物館に来る前に外資系のメーカーにいました。当時は、折しも85年の「プラザ合意」の影響を受け1ドル＝240円から140円に一気に円が急騰した時期で、日本のモノづくりはこれからどうなるのか、実体験いたしました。その後、日本はバブルに突入し、結局、円高もモノづくりの強さが世界に認められた(＝良い物は高く売れる)と言うことでもあり、懸念された産業の空洞化も乗り越え、今日に至っています。これは、日本が他の国と違い独自のモノづくりの風土があるからだろうと思ったのです。メーカーにいた当時、身体を壊したこともあり、日本のモノづくりは今後どうあるべきかを深く考えたいと思い、博物館に転職した次第です。

◇そもそも日本とは

サミュエル・ハンチントンの『文明の衝突』によれば、世界には8つの文明がありますが、日本はそのひとつ、単独の文明として存在するとしています。誇らしい面もありますが、裏を返すと日本が困って

も誰も助けてくれない＝日本を理解してくれる国は無いということでもあります。これから、グローバル化する中で、日本はこう見られていることは、しっかりと自覚する必要があると思います。

◇和魂漢才と和魂洋才そして和魂和才

日本の文化は、その風土と人が育んできた独自の文化であることは、皆さんもよく認識されている通りです。その日本は、これまでどういうふうには技術導入を行ってきたか＝どのように対外的に付き合ってきたかといいますと、和の心を残しながら、西洋や中国の技術・知識を利用しつつ日本のために役立ててきたということだと思います。和魂漢才、和魂洋才ですね。しかしこれからは、自分たちの持っているものをしっかりと自覚した上で日本の良いものをその精神も含めて世界に積極的に伝えていくべきだと思います。そのためには、自分たち自身を良く知るといふ所から始まるという意味での“和魂和才”が必要なのではないかと思っています。

そのような和魂和才を考える上で、まず日本という国についてももう少し触れますと、①単独の文明(先述) ②世界10位の人口③平和が基本のモノづくり④独自の大衆文化⑤自然の恵み(国土の7割が緑)⑥天災の多さ、これらの全てが他の国に無い日本という国、モノづくりの風土を育ててきた、日本の形であると思われまます。また最近よく言われるのがグローバル化に対応できない“モノづくりのガラパゴス”というものですが、これも四方を海に囲まれている日本の昔からの特徴だと思います。そして先述した通り、これからどうやって世界に発信・広めるか(＝和魂和才)する上で、このガラパゴスの意味を

もう少し我々は理解する必要があると思います。

◇ガラパゴスは悪いのか？

私は、ガラパゴスは色々なモノづくりにおいて、作り手も使う人も、全ての人々がモノづくりに関心を持ち、切磋琢磨し合うという行為そのものであり、それ自体は悪いことではないと思います。逆にもっとどんどんガラパゴス＝切磋琢磨をやるべきだと思います。

例えば、「磨き屋シンジケート（燕三条）」というモノづくりがあります。新潟の小さな研磨工場が集まって様々な物を磨く技術を持っています。これに最初に目を付けたのがアップルでした。「iPod」を磨く技術に採用したのですが、その後仕事そのものは台湾のメーカーに移ったものの最初の付加価値を決めたのは、磨き屋の技術でした。その他にもシャープの世界初の「写メ」（自分撮りができる携帯カメラ）など、ガラパゴス＝国内の競争の中で生まれ世界に先駆けた物は数多くあります。技術はキャッチボールであると思います。つまり、ある文化の中で生まれた技術がよその文化の中で別の形となってまた戻ってくる。その繰り返しによって世界のモノづくりは発達して行く。その意味で日本の持っているこのガラパゴス的世界は、日本という国、社会、人々の持つモノづくりのポテンシャルの高さの表れでもあります。

具体的には、日本のクレマーは質が良いとよく言われます。単なる文句や補償金欲しさではなく、その製品が良くなるようにクレームを付けてくるのです。だからこそガラパゴス日本のものは、良い製品の見本市になってくるのです。このことをしっかりと認識すれば、日本はもっと良いモノづくりができるし、それをどう活かすかに発展すべきではないかと思います。

◇グローバルではなくインターナショナル

この日本ローカルのガラパゴスがグローバルに展開できないのが問題とよく言われます。ところで、グローバルの対象は何処なのでしょう？ グローバルは球みたいなものですが、球であるとすれば中心があって、そこを中心としたグローバルという形になります。とすれば、その中心になってグローバルを言えるのは、今であればアメリカか中国、EUぐらいでしょうか。

日本が、グローバルに！ といった瞬間、日本は絶対その中心にはなれないと思います。日本が言うべきは、おそらくインターナショナル、もしくはマ

ルチナショナルだと思います。グローバルという中心にいる国が決めるのではなく、相手を考え、相手に合わせるのが日本のモノづくりだと思います。つまり相手の国、インターナショナル、マルチナショナルなモノづくりです。そのモノづくりが認められて、ローカルからインターナショナルに認められた段階で考え方も製品もグローバルに認められていくと思います。

ですから、グローバルの前にインターナショナル在りきで、どこか日本はやっていくのか？ モノづくりは誰のためなのか？ という日本では無意識に行われているモノづくりを、日本はもっと意識する必要があります。実例を挙げましょう。

写真1は30ミクロンの手術針です。ステンレス製で、30ミクロンだとほとんど目にみえないので顕微鏡を使った手術装置用です。例えば千切れた指を縫合して繋げる場合、普通の針（100ミクロン）だと神経まで縫えませんが、これだと細かい

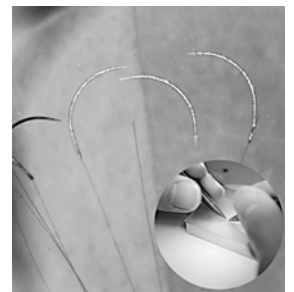


写真1

い神経まで繋げることができて、指の機能も元に戻る！ このような針を中小企業が作れるのも、日本の鉄鋼メーカーの作る高品質の鉄とそれを加工する中小企業の素晴らしい技術、そして人々の役に立ちたいというモノづくりの志があるからです。

このモノづくりの志、人々の役に立ちたいというモノづくりが、ともすれば日本の製品が過剰品質になる理由であると思うのですが、手術針のような医療分野にお金を惜しむ人はいないので、日本のモノづくりが過剰品質ではなくなります。日本のモノづくりは、このような分野において、インターナショナルからグローバルに広がって行くのではないのでしょうか。

◇今に繋がるモノづくりの歴史

ここで、モノづくりの歴史について触れたいと思います。私は、単に昔のモノづくりを研究しても駄目だと思っておりまして、モノづくりの歴史・文化が今にどう繋がり、さらに未来に繋げて行くにはどうすべきかというような視点で、博物館の仕事をしております。単に歴史をやるのであれば、それは回顧趣味でしかありません。なぜ、今この文化があるのかは、歴史を遡って行けば行くほどに、はっきりしてきます。日本のモノづくりで一番大事なものは、

モノを作るということだけでなく、そこに流れているモノづくりの思想をどう繋げていくかなのです。

そういう意味では、日本の改良する能力や思想も含めて（例えば“もったいない”）世界が認めている日本の良いものを（私たち日本人は気付かず使っている物なのですが）もっと前面に出して行くべきです。そうすればイノベーションが起きると思います。イノベーションとは、単なる発明や工夫とかではなくて、考え方や思想、哲学をも含めた社会や生活を変える技術革新だと思えます。

その日本が続けてきたモノづくりの歴史の一つとして、先程、“災害の多い日本”と申しましたが、その災害にも耐えた建造物“五重の塔”のお話をします。



法隆寺五重の塔

法隆寺には、世界最古の五重の塔が千年を超える長い期間、地震（阪神淡路大震災も含め）や風雪に耐えて立ち続けています。地震の揺れを「斗きょう」と呼ぶ複数の木材による木組み

や芯柱が吸収しています。スカイツリーも同じ構造で作られたのは有名な話ですが、地震国である日本の中で、古くから独自の工夫が行われて、今のモノづくりに営々と繋がってきている例だと思えます。

しかし、それも中国の技術だろうと言われる方もいるかもしれませんが、中国には木造の高層建築はありません。世界中の都は、強固な岩盤の上（地震の無い）にあります。中国や西洋が、石や煉瓦を用いた「剛構造」建造物を発展させたのに対して、日本は木造の「柔構造」建造物を選択しました。地震が多い日本の風土に合った倒れない建造物なのです。

◇ロボットの話

当博物館で私は、「自動車展」や「空と宇宙展（はやぶさの帰還）」など様々な展示を行ってきましたが、2008年には「ロボット展」を行いました。ホンダのアシモとトヨタのiユニットの共演も行い、日本ならではのロボットと人間のコラボショーを世界で初めて行いました。また、様々なロボットの紹介をしましたが、その中で「イカ釣りロボット」という物がありました。

漁業従事人口不足を背景に、魚群探知機と連動し、魚場に入ると自動で針を降ろしイカを釣るロボット

です。今世界で採っているイカの7割ぐらいが、このロボットで採ったものです。このロボットは、大学や研究所とは全く関係の無い地方の中小企業で開発された物なのです。この広がりや日本のロボットの特徴だと思います。日本は、昔からロボットを作ってきました。“からくり人形”もその一つですが、そのからくり人形も西洋（automata）とは、大きな発想上の違いがあります。

例えば、同じ“文字書き人形”でも、西洋では、技術者が自分の腕前を含めて王様や一部の人へ見せるために作ります。対して、日本では書く動作を一部の人ではなく多くの人に見せるために作られます。西洋では、エンジニアが自分の技術を誇るために作っていますが、日本の“からくり”は、見る人のために作って、どうやったら人が驚いてくれるのか？ を考えて作ってあります。演出として、わざと失敗させるのもその理由です。

このように“からくり人形”、そして現在のロボットをみても、人々のためにと、先ほど申し上げた日本という風土・文化が育ててきたモノづくりが表れていると思います。

◇競争・共存型社会の日本

1999年に日本の自動車100年展を行ったとき、「日本には、なぜこんなに自動車メーカーが多いのか？」と思いました。現在でも完成車メーカーが8社あります。人口1億2,000万人、世界10番目の国に8社です。この8社がちゃんと成り立っているのは、競争しつつ共存できる日本社会の風土があると思います。

企業城下町という言葉がありますが、城下町とは、それぞれの藩がそれぞれの地域を治めていたイメージです。徳川幕府の幕藩体制のもと、各地域が自主権を持って藩（決められた地域）を運営していました。幕府の存在があるため、各藩はNo.1にはなれず、オンリー1を目指して競い合ったのです。これが、日本社会に染みついていると思います。No.1は、どんな形であれ、相手がいなくなればいいのですが、オンリー1は相手がいないと成り立ちませんが、企業は“拘り”を持ち、それを好む最良がいて、オンリー1の“らしさ”が作られていくのです。つまり、それぞれが得意分野を作ろうとしてきたのです。

焼き物を例にとると、西洋に輸出するために作られ、No.1を目指したのが伊万里焼なら、日本人のために田んぼの土を使った自分たちしか作れないオンリー1の焼き物を目指したのが、備前焼のような

日本独自の焼き物なのだと思います。こういうやり方で日本は競い合ってきました。自動車メーカー8社はそれぞれが持っている拘りの技術を磨くことで、〇〇〇らしいモノづくりをしてきました。自動車に限らず日本のモノづくりは、No.1を狙うのではなく、オンリー1を狙って、それぞれが切磋琢磨して=ガラパゴスをしてモノづくりを磨いてきたのです。

これからの世界がNo.1を競うのではなく、競争しつつ共存するべきであるという意味でも、日本のモノづくりは今日的また未来的であると言えるかと思えます。将来に向かって良いモノづくりを、世界に示していけると思うのです。

◇用の美

西洋に“アート”という言葉があります。“技”と“美”の両方を合わせ持つ物という意味です。アートは、神に対して作る物なのです。神に対して作りますので当然ながら、お金もかかりますが、優れた技が使われ、美しい物しか作られません。対して日本には“用の美”という言葉があります。これは、日常の物に使われる技と美です。元々の言葉は柳宗悦さんが言った“使用の美”で、これは日本だけが作った“大衆の中にある美・技”を表しています。機能美とも違い、日本人が日常使ってきた物の中にある素晴らしい技や美意識を指します。

先の焼き物や和紙、漆器などのような優れた日用品を、江戸時代当時に作り出したのは日本だけなのです。こういう物を私たちは見直す必要があると思います。アートは神に向かって作るので、モノづくりにお金も素晴らしい技もふんだんに使えますが、用の美は、私たちが日常に生活する中で、作り手だけでなく使い手も一緒になって、高い感性や美意識を使って補いつつアートに負けない物を作っていく……。日本とは、こういうことができる国であり、そういう物を作ってきました。まさに日本のクルマがそれに近づいてきている！ と私は思います。

◇ものあわれとモノづくり

日本の独自性の一つに“自然の恵み”があると申し上げましたが、自然とモノづくりについてお話ししたいと思います。

豊かな自然によって我々日本人に培われてきたのが、自然との共生感です。日本人の意識中に自然が当たり前のようにあるということは、非常に大きな意味があると思います。特に日本は「山川草木悉皆成仏」のように、「草木も石も山も川も、ありとあ

らゆる物に魂が宿る」という考え方を持っています。このような考え方は日本ぐらいのもので、壊れたお茶碗を元に戻す金継(きんつぎ)も日本独自に発達しました。金継の技術は中国にもありますが、割れた茶碗を美術館に展示するのは日本だけです。お茶碗やお箸は自分の物として使い続ける物であり、使う人にとって魂が宿り、捨てられないのです。“もったいない”はそこから始まっています。

表題の“ものあわれ”や“モノづくり”も、もの=他を思う、大事にするところから始まっています。ものあわれとは、本居宣長が日本の文学を表した言葉なのですが、儂く変化する自然や物の移ろいに心が共感し一体化するという、日本独自の美意識です。他である「もの」に自分の気持ちや感情を投影する。「もの」を自分と同じ「生き物」とみなすことで成り立つ概念です。そんな風土の中で日本人は、モノづくりを行ってきたわけですから。そういう精神も含めてイノベーションに繋げる日本のモノづくりを考えることが大事だと思います。

例えばシャープの亀山工場は、第1回日本モノづくり大賞の受賞企業なのですが、工場のある地域名がブランド名になったのは亀山ぐらいでしょう。この工場を作るにあたってシャープは、この亀山の地を最大限に活用しました。亀山の自然を利用して省エネを行い、地元の人たちを多く雇い“もったいない”を徹底させたのです。人と環境にやさしいこの工場を目指したものが、亀山ブランドであり、これからの日本のモノづくりの進むべき道であろう、というのが審査員らの受賞理由でした。

◇医学書の話～翻訳の大切さ～

今年3月から6月まで、国立科学博物館で「医学展」を監修しました。日本の国民皆保険制度は、世界に冠たる医療制度だと評されています。この制度自体は戦後始まったものなのですが、実は江戸時代すでに身分や階級を超えた平等な医療が行われていました。当時の世界ではまだ、医術の知識や技術は、権力者らが独占していて、一般の人たちには使われませんでした。ところが、江戸時代の日本は、先述の通り幕藩体制の下、各藩が各地域を治め、その繁栄を競い合いました。従って殿様らは集めた知識や技術を独占する必要がなくなりました。それどころか、各藩の殿様は、任された地域を繁栄させねば“御取りつぶし”となるので、領民のために知識や技術を積極的に伝えたのです。

徳川光圀が編纂した薬の本に「救民妙薬」という

ものがあります。辺鄙な処に住み、医者に掛かれな
い貧乏な人々のために、誰もが手に入る野原に生え
ている草などが、どんな病気に効くか、その処方な
どをまとめた本です。これを皆にタダで配りました。
「医は仁術」といいますが、仁とは為政者が他を思う
心です。当時の殿様=為政者が、その知識を庶民に
与えたのです。そのおかげで庶民は養生することが
できました。養生=他人に迷惑をかけないことで
すが、知識が無ければ養生もできません。このよう
な薬草本は、他の藩でも出版され広まりました。つ
まり日本では、このように有用な知識が独占され
ること無く、一般の人に伝えられる風土ができた
のです。

有名な「解体新書」は蘭学の始まりと言われま
すが、それ以前にも通詞が蘭書を訳しています。し
かし通詞は仕事として、幕府のため、殿様のため
に翻訳し、一般には公開しません。ところが、この
解体新書は杉田玄白が、医者だけでなく、広く日
本中に伝えるべき知識だとして翻訳した本な
のです。このことは今に繋がる重要な出来事
でした。それまでこのような翻訳は、中国で
行われていましたが、解体新書の頃から中国
での翻訳は行われなくなり、代わって日本
が今に至るまで西洋の文化を翻訳するよう
になったのです。解体新書の登場で、誰もが
西洋の医術を日本語で理解できたのです。

これは、現代まで続いていて、明治時代の教科書
も最初は英語や仏語、ドイツ語などでしたが、
明治30年代頃に日本人が日本人を教えるよ
うになると、全て日本語に変わりました。今
でも世界中のどんな言葉でも最先端の論文
が出ると日本語に訳されま

す。欧米以外で世界の最先端を母国語で享
受できる国は、日本だけだと言つて良いと思
います。英語教育の在り方が色々議論され
ていますが、欧米以外で高等教育を母国語
でやっているのは、日本だけです。

だから高等教育を受けたエンジニアと現場
の人が同じ言語でコミュニケーションでき
ます。他のアジアの国ではこれできないの
です。日本は、解体新書のように江戸時代
からずっと翻訳を続けてきたのです。日本
が近代化・西洋化に成功した一番の理由
は、翻訳により、誰もが欧米の最先端の
科学技術を日本語で理解できたからなの
です。日本語になっているということ、日
本語で考えることができるということは、
先ほどのガラパゴスと同様に実は非常
に重要なことだと思います。

◇結び

私はモノづくりという言葉その思想も含
めたものとして、“カイゼン”や“カン
バン”と同じようにローマ字で伝わる言
語にすべきだと思っています。つまり「
MONODZUKURI」は、日本でしか作
れないモノづくり、思想も含めたモノ
づくりが認められることだと思うので
す。

120年続いている伊勢神宮のように
変わらないものや、これからの時代に
合わせて変わっていかねばならない
ものがあります。「日本人は、人間
を尊重し、自然と共生しながら平和
で豊かな社会を築いてきた。そう
いう中でモノづくりをやってきた、
だからこそ今日本はここに在る」
このことを次の世代にきちんと
伝えて理解していくことが、これ
からのモノづくりに大切なことだ
と思います。

訃報

ATグループ代表取締役会長
日本自動車会議所元常任理事・評議員
愛知県自動車会議所前会長

山口 直樹氏

ATグループ代表取締役会長で、日本自動車会議所
常任理事、同評議員、愛知県自動車会議所会長など
を務められた山口直樹氏が7月12日、心不全のため
逝去された。77歳だった。

山口氏は、昭和51年3月愛知トヨタ自動車社長、
平成14年6月同社会長を務められ、同社のグループ
会社を再編したATグループを設立、平成21年6月
ATグループ会長に就任された。

その間、平成4年6月から平成22年6月まで
日本自動車会議所常任理事、平成22年6月
から平成25年6月まで同評議員、平成3年
8月から平成25年6月まで愛知県自動車
会議所会長を務められた。また、日本自動
車販売協会連合会常任理事、日本自動車
連盟常任理事、日本自動車リース協会連
合会副会長、日本自動車査定協会理事、
愛知県自動車販売店協会会長、名古屋商
工会議所自動車部会部会長など数多くの
自動車関係団体の役員等を務められ、自
動車業界の発展に大きく貢献された。



西藤 直人氏 住友ゴム工業元社長
(当会議所会員元代表者)

住友ゴム工業で社長、会長を務められた西藤直人氏
が7月16日、肺炎のため逝去された。82歳
だった。

「日本自動車会館交通安全キャンペーン」企画

交通安全ポスター原画コンテスト
9月9日(火)まで作品募集

日本自動車会館運営委員会

日 本自動車会館では、交通安全意識を高めるための交通安全ポスター原画コンテストを今年も実施することにしており、9月9日まで作品を募集しています。「家族で広げよう交通安全」、「シートベルト・チャイルドシートの着用推進」、「飲酒運転の根絶」、「高齢者の交通安全」——の4テーマの中から作品テーマを1つ選び、クルマを中心とした交通安全を意識させる内容の作品をお寄せください。入賞作品には奨学金などが贈られ、「日本自動車会館交通安全キャンペーン」のイベント日の9月25日、同会館内で表彰式が行われます。

日本自動車会館では毎年、秋の交通安全運動に合わせ、「日本自動車会館交通安全キャンペーン」を展開しており、このキャンペーンを周知し、交通安全意識を高めるための一環として2007年から同コンテストを実施しています。全応募作品は同会館1階のエントランスホールに展示され、入館団体・法人

の関係者のほか、来館者や近隣住民など、どなたでも参加できる人気投票も行われます。

人気投票

の結果を参考に日本自動車会館運営委員会広報部会で選考し、最優秀賞（日本自動車会館賞）には賞状のほか副賞として奨学金10万円が贈られます。入賞作品は、同会館入館団体・法人の会報や広報誌などで紹介されるほか、入賞作品のデザインをベースにした交通安全啓発チラシやポスターを制作し、イベントや交通安全啓発活動などで活用させていただきます。



昨年の最優秀作品

《募集要項》

【テーマ】「家族で広げよう交通安全」、「シートベルト・チャイルドシートの着用推進」、「飲酒運転の根絶」、「高齢者の交通安全」——の4テーマの中から作品テーマを1つ選び、クルマを中心とした交通安全を意識させる内容で制作してください。

【応募規定】 ①作品形状はA3縦（作品出力に伴う周囲1cm程度の余白可）
②タイトルを付け、100字程度のコンセプト説明書を添付
※画像データがある場合は添付願います。
データ作成は「イラストレータ」の使用をお願いします。

【締切】 2014年9月9日(火)必着

【選考】 同会館運営委員会広報部会で人気投票の結果等を参考に選考

【入賞作品】 ①最優秀賞（1点）
日本自動車会館賞

正賞賞状・副賞奨学金（10万円）

②優秀賞（1点）

正賞賞状・副賞奨学金（3万円）

③入選（数点）

正賞賞状・副賞奨学金（5千円）

④児童奨励賞（数点）

※小学生以下の優秀作品に授与
正賞賞状・副賞記念品

【著作権】 同広報部に所属

※作品は返却いたしません。

【表彰式】 2014年9月25日(木)

※日本自動車会館交通安全キャンペーンのイベント日

会場：日本自動車会館「くるまプラザ」会議室

【提出先】 《コンテスト事務局》

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30

日本自動車会館15階

一般社団法人 日本自動車会議所

ポスターコンテスト係

【お問い合わせ】 TEL.03-3578-3880まで



東 京都と警視庁、東京都交通安全協会は7月1日、東京・千代田区外神田のベルサール秋葉原で「平成26年飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」夏季イベントを開催した。これは東京都、警視庁、東京都交通安全協会が7月1日から7日まで都内で展開する一連のキャンペーンのキックオフ・イベント。レジャーや帰省、暑気払いなどで飲酒の機会が多くなる夏季の飲酒運転根絶を訴えようというのが狙い。

主催者を代表して警視庁の廣田耕一交通部長が

「飲酒運転による交通事故は減ってきたが、近年下げ止まり傾向にあり、依然死亡事故に至る比率は高い。家族、職場、地域で飲酒運転根絶の運動を広めたい」と挨拶。また「脱法ハーブ（危険ドラッグ）による重大事故が起きている。飲酒運転と同様、絶対にしてはならないこと」と強調した。

当日は“よしもと芸人キャラ”などのアトラクションの後、キャンペーン隊長に任命されたタレントの友近さんらのトークによる交通安全教室などがあり、通行人の注目を集めていた。

自分はあまり飲まないという友近さんだが、死亡事故を起こした受刑者の手記に触れ、「飲酒運転という一瞬の間違った判断で、家族、周囲の人を不幸にしてしまう。芸能界でハンドルキーパー運動（飲食している仲間の中でアルコールを飲まず、運転を担当する人を決める）を広めていきたい」と表情を引き締めた。

この後、啓発グッズを配布してイベントを終了した。
〔東京都自動車会議所〕

第207回 会員研修会のご案内

新たな交通手段としてパーソナル・モビリティ・ビークル（PMV）が脚光を浴びています。PMVには、移動に伴う環境負荷の低減、交通弱者への移動支援など、さまざまな効果が期待されています。こうしたPMVの中で、立乗り電動二輪車セグウェイが、2001年に米国で、2006年から日本で発売されました。わが国自動車メーカーのトヨタやホンダも立乗り型の電動二輪車を発表し（未発売）、さらに少人数（1～2名）で乗ることができるマイクロEV（小型電気自動車）やロボットカーも注目を浴びてきています。PMVの市場は今後どうなっていくのでしょうか。

そこで今回の会員研修会は、セグウェイジャパン株式会社取締役の秋元大氏をお迎えし、パーソナル・モビリティ・ビークルの今後の展望について、ご講演いただくことといたしました。立乗り電動二輪車については、現在わが国では道路交通法により公道を走ることができないなどの課題も含め、普及に向けた取り組みと可能性を語っていただきます。

また、今回はセグウェイジャパン株式会社のご協力をいただき、講演に併せてセグウェイの試乗会も行おうことといたしました。

記

- 日 時 平成26年 9月18日(木)
13時00分～14時00分（講演）
14時00分～15時00分（試乗会）
- ※ご注意：通常と開始時刻が異なりますのでご注意ください。
- 場 所 日本自動車会館 1階
「くるまプラザ」会議室
及び エントランス広場
- テ ー マ 「パーソナル・モビリティ・ビークルの今後の展望」
- 講 師 セグウェイジャパン株式会社
取締役 秋元 大氏
- 定 員 80名（先着順）
- 締め切り 9月11日(木)
- 参加費 無料
- 申し込み FAX（03-3578-3883）まで

あい しゃ どう 愛 車 道 (246)

「自動車港」と夏の「すき焼」

船は「港」に停泊する。

飛行機は「空港」に着陸する。

宇宙へ向かって「航海」するのは「宇宙船」である。これらは、いずれも海に関連した言葉が使われている。

遠い昔、我らが祖先が最初に造り出した乗り物は、魚介類を採るための舟だったのだろう。やがて島や岬へ渡るための移動手段として発展して行き、そのDNAが今日まで様々な乗り物にまで継承されているのではあるまいか。

とは言え、鉄道は「駅」という名称に集約されている。自動車ではバス停留所の「バスベイ」があるが、殆どは「車庫」や「駐車場」と呼ばれているのは断るまでもない。歴史に“もしも”はないが、ひょっとすると、「駅」は「鉄道港」、駐車場は「自動車港」などと呼称されていたかも知れない。

「港」は「みなと」と読むが、その語源は「水の門」である。ちなみに、日本自動車会議所のある「港区」は、東京港を控えているからだが、同様に大阪市の「港区」は大阪港、名古屋市の「港区」には名古屋港が位置しているのは周知のとおりである。

自動車運搬船の殆どは、側面がスパリと切り落とされた箱型のようなスタイルをしているが、狭

いパナマ運河を通過する際に船のサイズが限定されるため、パナマックス型と呼ばれる。



自動車積載に当たっては、自走して乗船・下船するが、なるべく多くの台数を収容するために、クルマとクルマの間隔が拳一つ位に駐車させる“名人芸”を持つドライバーが活躍する。

と、ここまで書いたところで、配偶者から「あんた、ちょっとスーパーへ行ってきて頂戴」という声が掛かった。これは、これまでの経験からいって、お願いと言うより命令と言っている。パプロフの犬のように、反射的に「へいへい」という卑屈な返事をして椅子から立ち上がると、「夕食はすき焼にするから材料を買ってきて」そう言ってメモを手渡す。出掛けようと玄関に向かうと、「高い牛肉はだめよ！」と権高な声。＜そんなことは承知しとるわい＞腹の中でそう呟いたが「ハイ分かりました」という返事が口から出てしまうのも我ながら情けない。

それにしても「港」と「自動車」と「すき焼」の間にはどんな共通点があるのか？—自らの脳にそう問いかけた酷暑の午後だった。

(モーターコラムニスト 牧 博明)

日本自動車会議所会員(平成26年 8月 1日現在)=順不同=

- | | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|-------------------|
| 一般社団法人 日本自動車工業会 | 公益社団法人 全国通運連盟 | 一般社団法人 日本二輪車普及安全協会 | 山形県自動車団体連合会 |
| 一般社団法人 日本自動車部品工業会 | 公益社団法人 日本バス協会 | 一般財団法人 日本自動車研究所 | 一般財団法人 福島県自動車会議所 |
| 一般社団法人 日本自動車車体工業会 | 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会 | 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会 | 東京都自動車会議所 |
| 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会 | 一般社団法人 全国自家用自動車協会 | 一般財団法人 日本自動車査定協会 | 一般社団法人 神奈川県自動車会議所 |
| 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会 | 一般社団法人 日本損害保険協会 | 一般財団法人 全日本交通安全協会 | 一般社団法人 静岡県自動車会議所 |
| いすゞ自動車販売店協会 | 石油連盟 | 公益財団法人 日本自動車教育振興財団 | 一般社団法人 愛知県自動車会議所 |
| トヨタ自動車販売店協会 | 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会 | 一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会 | 一般社団法人 岐阜県自動車会議所 |
| 日産自動車販売協会 | 一般社団法人 全国自動車標板協議会 | 全日本自動車部品卸商協同組合 | 一般社団法人 三重県自動車会議所 |
| UDトラック販売協会 | 一般財団法人 自動車検査登録情報協会 | アイ・ティ・エスジャパン | 一般社団法人 富山県自動車会議所 |
| 日野自動車販売協会 | 一般社団法人 全国レンタカー協会 | 公益社団法人 自動車技術会 | 一般社団法人 石川県自動車会議所 |
| 三菱自動車販売協会 | 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会 | 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター | 一般社団法人 福井県自動車会議所 |
| 三菱ふそうトラック・バス販売協会 | 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会 | 一般社団法人 自動車再資源化協力機構 | 一般社団法人 大阪自動車会議所 |
| 全国スバル自動車販売協会 | 一般社団法人 自動車公正取引協議会 | 一般社団法人 日本ガス協会 | 一般社団法人 徳島県自動車会議所 |
| ダイハツ自動車販売協会 | 全国自動車検査登録印紙捌人協議会 | 一般社団法人 日本自動車運行管理協会 | 一般社団法人 香川県自動車会議所 |
| 全国マツダ販売店協会 | 一般財団法人 関東陸運振興センター | 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会 | 愛媛県自動車会議所 |
| 全国フォード販売店協会 | 一般社団法人 東京都トラック協会 | 一般財団法人 自動車用品小売業協会 | 高知県自動車会議所 |
| スズキ自動車販売店協会 | 一般社団法人 神奈川県トラック協会 | 一般社団法人 日本オートオークション協議会 | 一般財団法人 大分県自動車会議所 |
| ホンダ自動車販売店協会 | 一般社団法人 日本道路建設業協会 | 全国中古車輸出業協同組合 | |
| 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会 | 一般社団法人 日本ゴム工業会 | 全国オートバイ協同組合連合会 | (ほかに企業会員84、推薦会員3) |
| 日本自動車輸入組合 | 一般社団法人 日本塗料工業会 | 日中投資促進機構 | |
| 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会 | 板硝子協会 | 一般社団法人 青森県自動車団体連合会 | |
| 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会 | 日本自動車車体整備協同組合連合会 | 一般社団法人 岩手県自動車会議所 | |
| 一般社団法人 日本自動車機械工具協会 | 一般社団法人 日本交通科学学会 | 一般社団法人 宮城県自動車会議所 | |
| 公益社団法人 全日本トラック協会 | 一般社団法人 日本陸送協会 | 一般財団法人 秋田県全自動車協会 | |